

○Web サイトにオプトアウトする書式

「自傷による舌切創 12 例についての検討」

○研究の概要

我が国での自殺者数は減少傾向にはあるものの依然として年間約 2 万人程度いて、その方法は様々です。自殺方法の一つとして舌切創（舌切断や舌咬傷など）が挙げられますが、致命傷にはならず一命を取り止めることが多いとされています。自殺方法に舌切創を選択する場合は突発的な希死念慮が原因であることが多く、精神的に専門家によるサポートを必要とします。そのため、自傷による舌切創では歯科による早期介入による機能回復と精神科の介入による再発防止が重要です。

○研究の目的と方法

本研究の目的は、自傷による舌切創は歯科による早期介入による機能回復と精神科の介入による再発防止が重要であることを周知し、また症例報告が少なく治療方法選択に難渋することも多いため治療方法選択の一助となることです。方法は、対象となる患者様の電子カルテを参照してデータの収集を行い分析する後ろ向き研究です。

○本研究の参加について

患者様に負担が生じることはありません。研究で扱う情報は個人が特定できない形で厳重に取り扱います。皆様の貴重なデータを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いします。本研究にご自身のデータの使用を希望されない場合や何かご質問などがございました場合には末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

○調査する内容

2009 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日までの 15 年間に自傷による舌切創で当科を受診した患者様を対象とします。既存の電子カルテ情報のみを用いて実施する研究です。収集したデータは鍵をかけたファイルにて保管します。

○実施期間

研究対象期間：2009 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

研究実施期間：倫理委員会承認後～2026 年 3 月 31 日

○研究成果の発表

調査した患者様のデータは、分析・考察を行い学会や論文で発表します。また、個々の患者様のデータを発表する際には個人が特定されることはありません。

○研究代表者、当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 歯科口腔外科

東 真有香

○共同研究者

国立病院機構熊本医療センター 歯科口腔外科部長

中島 健

○問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 歯科口腔外科

東 真有香

電話：096-353-6501(内線 5336)

Mail:yamagata.mayuka.by@mail.hosp.go.jp